

実施計画・事務事業評価共通調書							記入日		平成27年3月31日				
【PLAN】事務事業の計画						所属部課名		教育委員会 岩間図書館					
						事務事業番号		1					
事務事業名			岩間図書館施設管理事業			評価区分	事務事業性質	維持管理事業	後期基本計画重点視点	補助単独区分	所管省庁		
						評価事業	重要事務事業	—			市単独		
						総合計画実施計画	—						
総合計画体系	政策	5 人が輝き、豊かな文化を創造・発信するまちづくり〔教育・文化〕				新規・継続	継続			補助率			
	小政策	2 だれもが自ら学び、能力を発揮できる環境をつくります				開始年度	終了年度						
	施策	1 生涯学習				事業期間	H20	単年度繰り返し	共催者・関係団体				
	小施策	2 施設・設備等の活用と充実											
予算科目	会計	款	項	目	細目名	関連計画							
	一般	教育費		社会教育費	図書館費	図書館費標準的事業	根拠法令	笠間市立図書館の設置及び管理に関する条例					
							実施手法	補助金の有無		負担金の有無			
							直営	—		—			
1 【事務事業の全体概要及び背景】 図書館法に定められた図書館の主要サービス(図書館サービス事業)が円滑に実施されるために必要不可欠である。						2 【H26事業計画(主に担当者が行う業務内容及び手順)】 ・視聴機器その他、館内備品の修繕を行い、利用者が快適に過ごせる環境を維持する。				3 【年度目標】 図書館の適切な管理運営		4 【事業費の内容(決算額)】 消耗品費 117千円 修繕料 211千円 医薬材料費 5千円 通信運搬費 42千円	
H27事業計画						H28事業計画				H29事業計画			
同上						同上				同上			
5 事務事業の目的と手段												単位	
目的	①対象 (働きかける相手・もの)		利用者				④ 対象指標	岩間地区の市民				人	
	②事務事業の意図(どのようにしたいのか。どういう状態にしたいのか)		・利用者がいつでも安全、快適に利用できる ・利用したい資料、情報が速やかに入手できる				⑤ 成果指標	入館者数				人	
手段	③目的を達成するために実際に行った行政活動(サービス)		・照明設備の維持、管理、修繕 ・視聴覚ブース等における視聴覚機器の維持、管理、修繕 ・書架、その他図書館家具等の維持、管理				⑥ 活動指標	開館日数				日	
								資料整理日				日	

[illegible]

社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》 特になし

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性 評価	①行政関与の必要性 《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》	
	②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性 《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	
有効性 評価	☒ 適切である ☐ 見直しの余地がある	図書館は、すべての利用者へ資料及び幅広い情報を提供する場であり、情報提供のための資料収集・保存には適している。
	③成果の向上余地 《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》	
効率性 評価	④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	
	☒ 向上の余地がない ☐ 向上の余地がある	利用者が安心・安全に利用できるための施設の維持管理は図書館運営の基本である。
一次評価結果	⑤事業費の削減余地 《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》	
	⑥人件費の削減余地 《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	
☒ 削減の余地がない ☐ 削減の余地がある		岩間図書館は、複合施設として市民センターいわまの2階に設置されているため、光熱水費等の維持費は、岩間支所地域課管理であり、これ以上の削減余地はない。
一次評価結果		全体総括(振り返り、反省点)
必要性	☒ 適切 ☐ 見直しの余地がある	施設の維持管理については、利用増加の促進及びサービスの向上が図れた。
有効性	☒ 適切 ☐ 見直しの余地がある	
効率性	☒ 適切 ☐ 見直しの余地がある	

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案
②改革・改善案を実現する上で克服するべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
・開架フロア照明のちらつき防止 ・視聴覚機器等の修繕への対応
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策
☒ 影響は大きく、問題の発生が予想される ☐ 代替案や対策を採ることで対応できる
この事業がなされなければ、本市の図書館サービス事業を実施すること不可能
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性（民間活動も含む）
☒ 他に手段がない ☐ 他に手段がある(事務事業名・活動名)
名称
☐ 他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる ☐ 統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 市民の生涯学習を推進し、本市の政策・施策を実現する上で必要不可欠な事業であり、現行どおり継続するのが適当である。
	資源配分	現 状 維 持	

実施計画・事務事業評価共通調書

【PLAN】事務事業の計画				事務事業番号 2		記入日 平成27年3月31日		所属部課名 教育委員会 岩間図書館			
事務事業名		岩間図書館サービス事業		評価区分		事務事業性質		政策的事業			
				評価事業		重要事務事業		○			
						総合計画実施計画		○			
総合計画体系	政策	5 人が輝き、豊かな文化を創造・発信するまちづくり〔教育・文化〕			新規・継続		継続		後期基本計画重点視点		
	小政策	2 だれもが自ら学び、能力を発揮できる環境をつくります			事業期間	開始年度		終了年度		健康都市づくり	
	施策	1 生涯学習				S60		単年度繰り返し		共催者・関係団体	
	小施策	2 施設・設備等の活用と充実									
予算科目	会計	款	項	目	細目名		関連計画		笠間市子ども読書活動推進計画		
	一般	教育費	社会教育費	図書館費	図書館費標準的事業		根拠法令		(法定)図書館法 (法定)子どもの読書活動の推進に関する法律		
							実施手法		補助金の有無		
							直営		—		
1 【事務事業の全体概要及び背景】				2 【H26事業計画(主に担当者が行う業務内容及び手順)】				3 【年度目標】		4 【事業費の内容(決算額)】	
・図書資料及び、視聴覚資料の貸出は、図書館法における図書館業務の根幹をなす業務 ・ブックスタート事業やおはなし会を開催し、幼少期から本に親しむ機会を提供する				・図書館資料の選定・発注・受入・配架、相互貸借手続き ・館内資料展示14本(重点視点以外の時事的テーマを含む) ・学校等への資料の貸出 ・ブックスタートやおはなし会、読書フェスティバル等の開催 ・図書館での絵本や児童書の貸出				・各種資料、情報の提供と発信 ・子ども読書活動の推進		消耗品費 1,560千円 食糧費 12千円 印刷製本費 60千円 保険料 5千円 委託料 1,123千円 使用料 2,099千円 備品購入費 5,795千円 負担金 40千円	
				H27事業計画		H28事業計画		H29事業計画			
同上				同上		同上		同上			
5 事務事業の目的と手段										単位	
目的	①対象 (働きかける相手・もの)		市民・利用者			④対象指標		岩間地区の市民		人	
	②事務事業の意図(どのようにしたいのか。どういう状態にしたいのか)		・市民生活の質を高め、豊かで安心できるものとなるように、できるだけ多くの市民、利用者が多角的な資料・情報と学習機会が得られる			⑤成果指標		入館者数 資料貸出冊・点数 おはなし会・読書フェスティバル参加者		人 冊・点 人	
手段	③目的を達成するために実際に行った行政活動(サービス)		・図書館資料を確保し、充実する。 ・利用者の要望に応じ、多角的な資料、情報と学習機会を提供する。 ・市民、利用者が必要な資料、情報を得られるように人的支援(資料案内・調査=レファレンス)を実施する。			⑥活動指標		開館日数 開館時間 資料購入点数 おはなし会・読書フェスティバル開催日		日 時間 点 日	

【DO】事務事業の実施

事業費及び指標の推移																				
事業費				単位	23年度(実績)		24年度(実績)		25年度(実績)		26年度(実績)		27年度(計画)		28年度(計画)		29年度(計画)			
投入コスト (インプット)	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円																
			県支出金	千円																
			地方債	千円																
			その他	千円																
			一般財源	千円	7,440		9,523		10,137		10,694		12,535		12,567		12,535			
	事業費計(ア)			千円	7,440		9,523		10,137		10,694		12,535		12,567		12,535			
	人件費	職員割合		人	千円	2.00	15,000	1.95	14,625	1.80	13,500	2,550	19,125	2,550	19,125	2,550	19,125	2,550	19,125	
		時間外		千円			89		130		131		341		400		400		400	
		嘱託臨時		千円			6,914		8,195		8,582		8,180		8,840		8,840		8,840	
		他課の協力分		千円																
		人件費計(イ)		千円			22,003		22,950		22,213		27,646		28,365		28,365		28,365	
トータルコスト(ア)+(イ)			千円			29,443		32,473		32,350		38,340		40,900		40,932		40,900		
指標区分				単位	23年度(実績)		24年度(実績)		25年度(実績)		26年度(実績)		27年度(目標)		28年度(目標)		29年度(目標)			
活動指標	開館日数	日				293		296		293		297		295		297		295		
	開館時間	時間				2,806		2,947		2,925		2,965		2,945		2,965		2,945		
	資料購入点数	点				3,250		3,208		3,174		3,302		3,400		3,400		3,400		
	おはなし会・読書フェスティバル開催日	日				51		52		50		48		52		52		52		
対象指標	岩間地区の市民	人				15,694		15,882		15,723		15,654		15,500		15,500		15,500		
成果指標	入館者数	人				111,383		118,232		115,625		116,937		120,000		120,000		120,000		
	資料貸出冊・点数	冊・点				220,702		230,449		217,178		211,294		231,000		231,000		231,000		
	おはなし会・読書フェスティバル参加者	人				53		373		350		302		380		380		380		

社会情勢の変化・市民ニーズの把握

事務事業を取り巻く環境《対象や法令根拠及び社会環境の変化(開始時期又は5年前との比較)・市民からの意見や要望》
図書館資料の貸し出し実績は年々増えており、新刊書購入に対する市民のニーズは高まっているが、行政全体を取り巻く経済情勢の悪化により、年々図書館資料費が削減されておりサービスレベルの維持が困難な状況である。

【CHECK】事務事業の一次評価

必要性評価	①行政関与の必要性《目的達成に向けて、行政の範囲は行政の役割から見て適切か？また市民の意向や社会の要請から見て適切か？》	
	②総合計画との整合性、対象と意図の妥当性《目的(対象と意図)は総合計画と結びついているか？実態(社会環境の変化)に合っているか？》	
有効性評価	☒ 適切である ☐ 見直しの余地がある	図書館は、「教育機関」「社会教育機関」という法的位置づけがされており、学校教育、家庭教育と相まって、生涯学習の一翼を担っている。
	③成果の向上余地《成果は、昨年度と比べてどうであったか？工夫をすることで今後、更なる成果向上ができるか？》	
効率性評価	④成果の波及効果《全市民、または多くの市民や他の施策への波及効果があるか？》	
	☒ 向上の余地がない ☐ 向上の余地がある	図書館の利用は、もっぱら利用者の自主性・自発性に基づいている。また、図書館資料は学習資源であり、その利用は自主性・自発性を旨とする生涯学習を端的な形で表しており、有効性は高く、利用も伸びている。
効率性評価	⑤事業費の削減余地《活動量を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の見直し、市民の協力など)》	
	⑥人件費の削減余地《活動量を下げずに人件費を削減できないか？(業務プロセスの見直し、個々の業務の効率化等、業務委託や臨時雇用等)》	
一次評価結果	☒ 削減の余地がない ☐ 削減の余地がある	資料の購入等については、3館で協議し購入計画を立てている。また、各種サービス、事業については、各図書館の状況に応じて展開している。
	全体総括(振り返り、反省点)	
必要性 ☒ 適切 ☐ 見直しの余地がある		
有効性 ☒ 適切 ☐ 見直しの余地がある		
効率性 ☒ 適切 ☐ 見直しの余地がある		
本事業は、図書館の根幹的事业であり、利用者が必要とする資料の収集・提供を行い、利用者の教育と文化の発展に貢献した。		

【ACTION】事務事業の改革・改善

①改革・改善案
②改革・改善案を実現する上で克服すべき課題と解決方法

フォローアップ 前年度の課題や問題点

③前年度の改革・改善案
課題なし
④取組状況

その他

⑤事務事業を休止、廃止した場合の成果への影響の有無とその対策
影響は大きく、問題の発生が予想される代替案や対策を採ることで対応できる
本事業は、図書館の根幹的事业であり、これを廃止すれば、図書館としての体をなさず、本市の生涯学習推進上、支障が出る。
⑥類似事業との統廃合・連携の可能性（民間活動も含む）
他に手段がない 他に手段がある(事務事業名・活動名)
名称
他の事務事業や活動と統廃合や連携ができる統廃合や連携はできない・既に連携している

【PLAN】事務事業の計画

総合評価	今後の方向性	現行どおり継続	評価理由 市民の盛んな利用は、当事業に対する市民の高い評価を裏付けるものであり、現行どおり継続するのが適当である。
	資源配分	現 状 維 持	